



学校だより

令和5年6月30日
横浜市立豊田小学校
7月号

豊田小学校ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/toyoda/>

「れ・い・ぎ・さ・ほ・う」

「礼儀」とか「作法」という言葉、耳にする機会が以前に比べて減ってきたような気がします。

- ① 朝、「おはよう」と声をかけたのに、相手は、返事をしないでいってしまった。
- ② 食事中、食べ物を飲み込まないまま話をするので、口の中の食べ物が見えたり、食べ物がこっちに飛んできたり……。

①は、あいさつの「礼儀」、②は、食事の「作法」が身につけていないことから、周りに不快感を与えてしまう例です。そして自分では気が付かないうちに、周りの人を悩ませたり、怒らせたりしてしまい、周りの人と関係を悪くしてしまうことになっていきます。

「礼儀」とは、相手を大切に思う心が、外部に現れた姿です。

「作法」とは、相手に気持ちよく感じてもらうためには、どのような形がよいか、社会の中のきまりごととして伝わってきた立ち居ふるまいです。

どちらも、伝統や文化に関連した日本特有の良さだと思います。「礼儀・作法」は、教えられないと、知らないまま過ごしてしまいます。これを知ること、自分も周りの人も、気持ちのよい和やかな生活を送ることができます。

誰にも、相手を大切に思う素敵な心がそなわっているはずですが、でも、わかる形にして表現しなければ、その心は相手に届きません。また、いくら形が整っていても、相手を大切に思う心がこもってなければ、相手に気持ちよく感じてはもらえません。素敵な心を行動に表わしたら、そして自分も周りの人も気持ちよく和やかに生活を送ることができるとしたら、それは素晴らしいことです。

人は、誰もが周りの人たちとの関わりの中で生きています。社会はそこに生きている人々の支えで成り立っています。ですから学校や社会の中で、皆が気持ちよく生活するためには、一人ひとりが感謝の気持ちを持ち、社会のルールを守り、周りへの配慮を行動に表わして過ごすことが大切です。

学校や地域の中で、ルールを守らない人や、「礼儀・作法」の身に付いていない人に出会って、いやな思いをしたことや、逆に自分が周りにいやな思いをさせてしまったことは、ないでしょうか。

「礼儀・作法」は、その人の習慣として身に付くものです。ですから、普段のちょっとしたしぐさにも表れます。日常生活の中で、生活習慣や規範意識、その根底にある感謝の心が、いつも問われているのです。

横浜市教育委員会は、上記の内容に触れながら過去に「中学生のための礼儀・作法読本」を作成し、中学生に配付しています。「正しい姿勢」「おじぎの仕方」「椅子の座り方」「歩き方」「ドアの開け閉め」「傘の差し方たたみ方」「敬語」「箸や茶碗のもち方」「手紙の書き方」「朝会の並び方」「公共の場でのふるまい」「携帯電話の使い方」等々、「礼儀・作法」について誰にもわかるように絵や写真を使って説明しています。

学校では、道徳の時間はじめ、教科の時間や生活の中で、折に触れ「礼儀・作法」を教えています。素直に理解し、進んで行おうとする子は、どんどん「礼儀・作法」を身に付けていきます。中には、教える前から、しっかりと「礼儀・作法」を身に付けている子を見かけることもあります。きっとご家庭でしっかりと教えてもらっているのだろうと感心します。学校でもしっかりと指導していこうと気持ちを新たにしている瞬間です。

「礼儀・作法」は、周囲の人を「大切に」思う気持ちが外部に表れた姿ではあるのですが、何よりもその人自身を素敵に輝かせているとも感じます。兄弟やクラスの友達、年下の子など周囲を大切にしている豊田っ子の姿をたくさん見かけます。大きくなるとともに年齢相応の「礼儀・作法」を身に付けて、周囲の人を大切にしながら自分自身も素敵に輝かせていってほしいと思います。